

ティーチング・ステートメント

所属 全学共通教育部
名前 奥山 史亮
作成日 2021年3月12日

【責任】

宗教学を専門に研究しており、本学では主に「日本語表現法Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」「人間の理解Ⅱ：民族と宗教」の授業を担当している。さらに「ビジネススキル（言語能力分野担当）」を分担し、ラーニングサポート室において学習支援も実施している。（シラバス参照）

【理念】

「日本語表現法」では、人間関係の構築、および社会活動に直結するものとして言語表現を捉え、自身および他者の言葉を大切にし、言葉に責任を持てる社会人の育成を目指す。それと同時に、言語によって表現できることとできないことの境界を見極め、言葉では表現することが難しい人の感情や思考に寄り添える力を育むことにもつなげたい。

「人間の理解Ⅱ」では、グローバル化の進展を見据えながら、理解の及ばない文化現象を退けるのではなく、理解しようと考え続けられる力を育むことを目指す。宗教を信じるか否かという個人的見解とは別に、信仰の有無にかかわらず、他者の宗教を理解しようと努められる力を育みたい。

プラトンやカントをはじめとする古典文化の言葉を借りてコロナ禍の現状について考えるといったように、過去の人間の言葉を通して現代われわれの思想文化を相対的に捉え直し、さらに、自分たちとは信仰を共有していない宗教の見地から自らの文化体系・価値体系を相対的に捉え直すことができるようになることを目指す。「古典」を学ぶことによって、現代世界の多様性に対応し得る力を身に付けてほしい。（シラバス、授業資料など参照）

【方針・方法】

方針1 およびその方法：「日本語表現法」では、言語使用のルールと社会活動のルールの関連性を示しながら、言語が自己表現のみならず他者理解の基盤であることを認識することを方針とする。さらに、思考能力と言語表現の関連性を学ぶことを通して、言語表現の限界点を把握することも目指す。上記の方針に沿うために、下記の方法を実施している。（シラバス、授業資料など参照）

- ・一定量の文章を読ませたり書かせたりする課題を出し、それを評価付けして返却する。
- ・読み手を意識しながら文章を作成できるようになるための練習を反復する。
- ・語彙力を増やすため、毎時間、小テストを実施する。
- ・読解力を高めるため、文章の要約課題を継続的に実施する。
- ・学術論文・レポートの書き方を学習する。
- ・社会性を育むため、敬語表現の基礎を学習する。
- ・自説を提示する方法、および論証する方法を学習する。

方針2 およびその方法：「民族と宗教Ⅱ」では、他者の信仰を敬いながらも、正確な知識に基づきながら、宗教について自律的に考える力を育むことを方針とする。さらに古今東西の様々な文化現象について、比較的な視野から分析することを目指す。「信仰」と「研究・学問」の境界を概観しながら、その峻別の困難性、客観的思考の困難性について考える。上記の方針に沿うために、下記の方法を実施している。（シラバス、授業資料など参照）

・宗教に関する正確な知識を習得させ、先入観を有したまま宗教に接することの問題点と危険性を、様々な事例研究を紹介しながら認識させる。

・宗教や神話のテーマが多様な文化に取り入れられていることを指摘し、宗教が身近な文化現象であることを認識させる。

・各時代の宗教研究が行われてきた歴史的、政治的背景を学習する。

・宗教対立・異文化衝突の解決法として提示されることの多い「宗教間対話」が生じてきた歴史的過程、およびその教条性を分析し、その問題点および限界点を認識させる。

・ヴェーバーの価値自由論（価値判断と事実判断の区別、学問研究から倫理を導き出しては

ならないというテーゼ)を学習し、宗教研究・異文化研究の場合にそれが適応可能か否か、授業全体を通して考えさせ、学問の役割に関する熟考につなげる。

- ・宗教に関する自身の意見を自由に記述し、それを他者と共有する。

【成果・評価】

授業アンケートの結果から、文章作成や宗教文化に対する学生の関心が高まったと判断できる。また、授業では学習内容に関する感想を毎時間の小レポートで書かせており、各授業への学生の反応を把握するようにしている。(授業アンケート、授業の小レポート参照)

【目標】

言語に関する教育研究

短期：近代独仏語圏の精神分析および言語哲学における言語論を研究し、言語と認識機能、文化創作の関係性に迫りたい。5年以内。

長期：言語を単なる伝達・コミュニケーションの道具と見做すだけでなく、言語学や現代哲学の動向を取り入れながら、認識機能や実存的創造性の根底にあるものとして捉え直し、その成果を授業に反映できるようにしたい。

宗教・民族に関する教育研究

短期：近代におけるユダヤ運動と分析心理学、独伊ルーマニア民族主義宗教運動の交差について研究し、「民族」「人種」「心理」「宗教」概念の形成過程、および相互関連性を明らかにする。3年以内。

長期：現代における宗教学の学的枠組みを前提とするのではなく、宗教が研究されるようになった歴史的過程をたどり直すことで、「近代」「現代」社会が「宗教」とどのように向き合ってきたのかを把握し、その成果を授業に反映できるようにしたい。